

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	中結腸動脈周囲の自律神経におけるラマン分光法を用いた研究
	研究目的	大腸癌の手術の際には、摘出した癌の検体の組織を正確に把握するために病理学的診断が必要です。しかしながら、その診断には通常2週間から4週間程度の時間を要します。本研究は、時間を要する病理学的診断の代わりとなるような技術を開発するために、摘出した手術検体を用いてラマン分光法という手法を用いて、生体内の組織に特異的なラマンスペクトルと呼ばれる信号を取得し、そのデータを用いて瞬時に組織を同定できないかを調べる研究です。この研究はすでに直腸癌で行われていて、この手法のために検体に傷が付き、最終的な病理学的診断ができなくなることはありません。また追加で組織をとることもありません。今回は右結腸に癌が出来た患者さまを対象に研究します。
	研究対象者	2020年9月から2021年9月に当センター消化器外科にて大腸癌の治療を受けた患者さん。
	研究期間	西暦 2020年9月14日 ~ 西暦 2022年3月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の管理について の責任者	当センター 研究責任者	消化器外科 塩澤 学
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器外科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	単施設研究のため記載なし